



問 町の地域公共交通の現状と今後の対応は

答 新型コロナの影響で利用者が減少している。今後はPR活動等により利用促進を進めていきたい

主要な町民の足として代替バス（五霞町役場～幸手駅間）と地域公共交通ごかりん号（朝晩及び日中ルート；江川本村～南栗橋駅間）の運行をしているが、コロナ禍での利用控えによる減少が懸念される。

問 近年の利用状況等、運行実績は。

生活安全課長 実績、費用

等は付表に示したとおりです。代替バスの利用人数は令和元年度から3か年平均52,614人ですが、令和2年度は前年度比11,001人減少しています。また、ごかりん号の利用者は令和元年度から3か年平均16,895人でしたが、令和3年度は前年度比3,811人の減となり、運行開始以来、初めて減少しました。

問 五霞町公共交通会議の開催と改善に向けた対応は。

生活安全課長 公共交通会議は感染防止のため書面協議により開催しています。また、PR活動もイベントの中止によりできない状況でした。今後は感染防止対策として、オンライン会議等の会議手法を工夫し、公共交通会議を開催するとともにPR活動ができるように検討していきます。

問 町地域公共交通の課題は

答 公共交通空白地域を解消し、交通環境の整備を進めていくことが重要な課題

町は代替バス、ごかりん号、公共交通空白地有償運送事業の3本柱で体系構築を図り、継続的な公共交通手段を確保するとしているが。

問 公共交通空白地有償運送の状況は。

生活安全課長 平成29年度

から令和元年度までの利用者平均は1,821人で、令和2年度は780人に減少しています。サービスを提供する協会会員は令和3年1月現在20名（平均年齢71歳）が登録しています。

問 公共交通への意見、要望は。

生活安全課長 今後もアンケート調査や行政懇談会及び利根川沿線6行政区連名の要望、各委員からの提案について、地域公共交通会議及びコミュニティ交通運営協議会で協議を重ね、利用促進、利用者の確保に努めていきたいと考えています。

	代替バス (五霞町役場～幸手駅間)		地域公共交通：ごかりん号 (江川本村～南栗橋駅/バイシア間)	
年度	令和元年(平成31)	令和2年	令和元年(平成31)	令和2年
期間	平成30.10月～令和元.9月	令和元.10月～令和2.9月	平成30.10月～令和元.9月	令和元.10月～令和2.9月
運行費用	28,323,886円	28,665,580円	21,906,179円	22,985,303円
営業収益	9,717,558円	7,846,177円	2,720,042円	2,732,561円
国補助金	2,548,000円	5,019,000円	7,997,000円	7,464,000円
県補助金	913,000円	757,000円	-	-
町負担金	15,145,328円	15,043,403円	11,189,137円	12,788,742円
利用人数	58,599人	47,598人	17,847人	18,325人
最多利用日ベスト1	4/5;851人;晴のち曇	3/24;459人;晴	8/6;117人;晴	3/31;104人;晴のち曇
最多利用日ベスト2	4/9;795人;晴のち曇	3/25;405人;晴	10/28;114人;晴	6/16;103人;晴
最多利用日ベスト3	4/3;771人;晴	3/26;404人;晴	7/30;113人;晴	3/3;98人;雨

代替バスとごかりん号の運行費用及び利用人数の実績